

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4302
22年11月22日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

タウンの物数「0」 入力が必要なことなのか

おはようございます。

先週、第3集配営業部のミーティングで「タウン(タウンメール、タウンプラス、以下タウン)の物数入力の際に、配達しなかったら物数入力0と入力するように」との周知がありました。

周知では、タウンの配達が残っている間に配達しなかったら物数0の入力を行うと言っていますが、その配達が残っている間とは、

- ①自分の配達区が残っている場合
 - ②自分の配達区には残っていないが所属する班の他の配達区に残っている場合
 - ③自班は残っていないが所属する集配営業部の他班に配達が残っている場合
- など色々なケースが考えられますが、その説明は一切なしです。

そもそもタウンは全ての配達区に差し出されるとは限りません。タウンが差し出されていない配達区も物数0と入力するのでしょうか？明確な指示がない中で、いきなりの周知に社員からは戸惑いの声も聞こえてきました。

周知後、物数0の入力を行わなかった社員は、D OSSの入力漏れとして指摘されています。D OSSが導入され数年が経過し、タウンの取扱いも今に始まったことではありません。何故、いきなりこのような周知があったのでしょうか。

D OSSの入力に関しては、入力漏れを発生させると班長との対話をしなければならぬケースも多々あります。



項目の切り替えなどを忘れていた場合は変更、修正などは可能ですが、誰でも忘れる事もあるでしょう。

入力漏れ、項目の切り替え漏れなどが人事評価などに反映されるのかはわかりません。しかし管理者が記録として残しているということは、少なからず人事評価などに影響を及ぼす可能性があります。



今回のタウンの物数入力0に関して、他の集配営業部の社員に聞いたところ「聞いていない」との返答がきました。「タウンの物数0入力」は第3集配営業部の社員だけなのでしようか？

そもそも、D OSSの入力方法は会社で統一しなければならぬと考えられますが、管理者の判断で変更は可能なのでしようか？

仮に入力方法が変更になっただけで、一部の社員が知らないだけだとすれば問題です。全社員が把握するように周知の徹底を行わなければならないし、そうでないと社員間

の公平性は保てないと思います。

毎日の業務では、D OSSなど多くの入力を要する作業が有ります。追跡情報の入力も勿論のこと、作業項目の入力も正確な業務時間を割り出すために必要なものなどは理解していません。しかしその多さに戸惑っている社員がいることも事実です。入力指示は必要性をしっかりと説明するようにしてほしいものです。



「はこぼす」の利用 拡充

「はこぼす」とは荷物や郵便物を、駅や郵便局などに設置されたロッカーで受け取り又は差し出すことができるもので、2015年4月にサービスが開始されています。今月17日より、オーブン型宅配ロッカー「PUDOステーション」

「はこぼす」として利用できるサービスが拡大されました。

「PUDOステーション」とは、他の宅配会社等も利用している宅配ロッカーのことです。日本郵便を含め宅配業界は再配達のコストに頭を抱えています。この再配達を少しでも削減するために、置き配や、指定場所配達など様々な受け渡し方法を利用者に提案しています。その受け渡し方法の一つがこの「はこぼす」です。

まだ設置が少なく、市内では江川町のスーパに設置されている一か所だけ。近郊でも時津町浜田郷のスーパと長与町高田郷の宅配便配送センターにしかありません。また県内ではヤマト運輸が4か所設置していますが、郵便局にはありません。ゆうゆう窓口の代替にもなります。長中局に設置してほしいものです。長崎でも設置箇所・利用者が増え、再配達も少しでも減少すれば良いですね。時間に追われる焦りが少なくなり、郵便事故や交通事故も減少するかもしれません。



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。

ゆげ、均等待遇、なげん差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ！